

まだあると思います。

ただ、既存の「マスメディア」という概念のメディアが今後、どういう形になるかはまだ見えないところがあります。アメリカや韓国のように社会が左右に分断されている部族社会では部族ごとにメディアが別々に存在する形にならないともかぎりません。日本もやがてはそういう分断社会になるかもしれません。

それは前にも少し述べましたが、日本の場合、どういう分断が起こりうるかと言えば、憲法改正の問題と、七〇年前の戦争をどう評価するかという問題です。日本が今まで棚上げにしてきたこの大きな問題が国民的議論として本格化したときには分断が起こるかもしれません。

望月 憲法九条の問題と戦争の問題、つまり、日本は二度とあのような戦争をしてはいけないという考え方についてどう評価するのか。「憲法九条を守ろう」という運動と「日本が戦争をできる国にはいけない」という運動をした人たちに取材してきた感想で言うと、安保法制のときは法案に反対する署名が三〇〇〇万人集まったようですが、憲法九条についてはそこまでの動きにはなっていないようです。

署名を集めた人たちは「日本が海外に出て戦争をする国にしたいんですか！ と訴えると

支持がどんどん広がったけれど、憲法問題はまた少しわかりにくいのかもしれません」と話していました。

安倍政権側の憲法改正についての言い方が巧妙で、「自衛隊は憲法上、違憲状態になっているから、この際、きちんと書き込んでおきましょう」と言っているわけです。そう聞いて、「それぐらい認めてもいいんじゃないか」と感じる人たちも結構いるんです。憲法改正のハードルを低く見せているところがうまいというかズルいというか。もしこんな感じのまま進んでいけば、安保法制のときよりは憲法改正のほうが騒がれない可能性もあります。とすると問題なのは、憲法改正問題よりも、戦争についての評価のほうです。日本が勇ましい方向にずんずん逆戻りしていくかのような動きが見えたら、むしろ大きなうねりが起こるのかもしれません。

しかし、ここで重要なのは安倍首相ら自民党が提案しようとしている九条三項加憲案は、違憲の疑いが濃厚な集団的自衛権の行使容認を前提とするものだという事です。問われているのは、集団的自衛権が行使できる自衛隊を明記し認めうるか否かなのです。

フアクラー 前の戦争をどう考えるかという問題で、いちばん重要なポイントは、あの戦争を語り継ぐ人がいなくなっていることです。戦争を体験して戦争の悲惨さや残酷さを肌身で知っ

ている世代の人が非常に少なくなっています。日本政府や日本軍が何をしたのかをちゃんと知っている人が、とても少なくなってしまう。あの戦争の記憶が日本から消えかけているのです。ちょうどそのときに、日本が自衛以外の戦争ができる国になるような法律ができた、新しい法案が検討されたりしているのです。

日本人はあの戦争を教訓としてきたはずなのに、なぜそれをちゃんと語り継いだり教育したりしないのか。そこがとても大きな問題だと思います。

望月 その通りですね。私たちが子どものころは戦争を体験した親や祖父母や大人たちがたくさんいました。戦争に行った人はその体験を身近な子どもたちにしてくれたし、親や祖父母は戦争で肉親を失った経験を聞かせてくれたり、街中焼け野原になった話や食べものが何もなかったという話を聞かせてくれたりしました。話をしている人も聞いている人も「二度と戦争をしてはいけない」という強い共通認識がありました。それが失われつつあるというのは、教育現場でそういうことを積極的に教えようとしてこなかったせいでしょう。

しかも、むしろ教えまいとする人たちが戦争という悲惨な過去を消そうとする人たちがいます。たとえば、在日特権を許さない市民の会などが先頭に立って、「教科書の中から集団自決や慰安婦という表記を削れ」という訴訟を起こして、「裁判で係争中だから」という理由で教

科書検定サイドに削除を働きかけたりしています。第一次安倍政権以来、そういう歴史修正主義が出てきて、少しずつ過去の戦争犯罪を薄めさせようという動きを見えています。あのとき日本政府は国民に何を強いていたのか、海外の人に何を強いていたのかということを消し去っていくという動きがあります。

そういう戦争にまつわる歴史を一生懸命教えている「慰安婦」問題を子どもにどう教えるか（高文研）の著者である大阪府の公立中学校の平井美津子さんという教師がいます。ところが、在特会（在日特権を許さない市民の会）を始めとする人たちは、その学校の校長に反論のための資料を持って直談判に行つてやめさせようとするなど、すごく詳細に、どこの学校の先生がどんなことを教えているのかを調べ上げて、教育委員会に文句を言いに行つたり、校長に文句を言つたりして、歴史を塗りかえようとしているんです。そういうことが、いまじわじわと広がっています。ただでさえ戦争についてきっちり教えていないところがあるので、これをもっと教えられなくなっている感じがします。これは怖いですよ。

そして、政治の場でもメディアでも、あの戦争をどう評価するかという議論がおろそかになったまま、いまに至つて安保法制ができたり、武器輸出がどんどん進んだりしています。フアクラー その防波堤となるのが憲法九条のはずですよ。戦争の反省から生まれた平和憲

法の核心部分ですからね。その憲法改正が国会で本格的に議論されるようになったときに、世論はどうなっていくでしょう。

望月 自民党支持層は若者が多いのですが、そこもポイントのひとつだと思います。二〇一七年六月から七月にかけてNHKが行った「平和に関する意識調査」で、自民党支持が五割以上と言われ、新たに選挙権が与えられる一八歳・一九歳の人たちに「憲法九条を改正する必要があると思いますか」と尋ねたところ、約五三パーセントの人が「改正する必要はない」という答えでした。これを見ると、自民党支持と改憲支持が結びついているとは言えない。九条に自衛隊が書き込まれたとき、アメリカ型の経済的徴兵制を含めて若者たちが負うものを彼らはそれなりに真剣に考えていると思いました。

また「日米安全保障条約は、日本の平和と安全にどの程度役立っていると思いますか」の質問には、二〇歳以上は約八五パーセントが「役立っている」でしたが、一八歳・一九歳の人たちは約七六パーセントとそれよりもやや少ないことも印象的でした。そうしたいろいろな世論調査を見るかぎり、言われているほど若者層の改憲支持者がいるとは思えません。

だからこそ、最近、安倍首相がやたらに芸能人に近づき始めて、改憲賛成を一緒にアピールしてもらおうと思っているんじゃないかという気がします。安倍政権が思っていたほど、国民

は「安倍さんが変えたいと言うなら変えてもいいよ」とは思っていないと私は見えています。

フアクラー あの戦争をどう考えるか。平和憲法の礎と言える九条を本当に変えていいのか。日本の人たちが思っている以上に世界はそこを注目しています。それがやっぱり日本のこれからの方向性を示すうえで重要な点です。日本が七〇年以上、戦争をしなかったのは、戦争を体験した人たちが身を挺して防波堤となってきたからです。その人たちがいたから憲法もまったく変えなかった。「もう二度と戦争はしない」という決意があったから九条を守り抜いてきたんです。それが戦争を経験した世代とともになくなるうとしている。いままでの日本の社会がそんなふうに変わろうとしていると思います。まだどの方向に行くかわからないけれど世界はそこを注意深く見えています。

なぜなら、そこにはアジア情勢も絡んでいるからです。中国や朝鮮半島の様子もかなり変わってきました。中国の台頭と北朝鮮の核兵器問題。もしアメリカが撤退したり衰退したりすれば、日本が「もう自分たちで自分を守るしかない」というある意味で当たり前の結論を出して、それを世界に示すのかもしれない。核実験を行い、核開発を喧伝していた北朝鮮の金正恩委員長は、平昌五輪を皮切りに一挙に南北対話、米朝首脳会談の開催に舵を切り、「朝鮮半島の非核化」を表明して対話を進めています。いまの国際情勢は、いろんなところでい

るんなことが同時に発生しているから、その中で日本がこれからどう変わるかわからないですよね。いままでの当たり前が当たり前じゃなくなっているんです。

望月 ロッキード・マーティン社の幹部と話をしたときに強く感じたのは、日本の軍事装備は、憲法九条をどうするかという話以前に、すでに着々と軍事力増強に向かって進んでいるということなんです。巡航ミサイル導入を決め、一基八〇〇〜九〇〇億円と言われるイージス・アシヨアも前倒して二基購入します。観測気球的に「護衛艦いずもを空母化させる検討を始めた」と読売が書き、各社が追いかけてきたけど、小野寺防衛大臣は「さまざまな見地から考え不断の努力を行っていく」という曖昧なコメントしかしない。これはもう武器を売る側のロッキード・マーティン社からしても、「日本がここまで進むのか」と驚くようなことを日本版NSCが主導して進めているようなんです。もう憲法九条の議論が始まる前に専守防衛を超えて敵基地攻撃能力を持つ装備を一気に持とうとしている。憲法九条の前に現実論として装備してしまえと。民主主義の手続きをすっ飛ばして「そっちを先にやっつてしまえ」みたいな空気もあり、すごく怖いなと思っています。

フアクラー いままでは、戦争を経験した世代と専守防衛が歯止めになっていたけれど、それがなくなったらどうするのか。日本の軍事力は戦後、弱体化して、いまはそんなに強くないみたいなの認識を持っている日本人が結構多いと思いますが、実際はすでに軍事大国なんですよ。結構、強いんです。海上自衛隊を世界の海軍と比べてみると、世界三位ぐらいと言われています。軍事については国家機密だから情報公開の基準がまちまちで、いろんな尺度があるんですが、少なくとも「いまの日本はイギリスより強い」と言われているぐらいです。

望月 いつのまにか軍事大国になっていた日本。議論がまったく追いついていない。これは本当に怖いことだと思います。